

2025

8

ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【14】

正子の部屋／南館正子

私のセレクト【6月号より】

高校生短歌特集【10】



NILE CAMPUS

314

伯梅閑話 ―高砂屋五代目中村福助―

小村井敏子（五代目神田伯梅）

昭和四十四年の元日に高砂屋福助丈は亡くなった。舞台を一度観ただけの歌舞伎役者だ。歌舞伎座で仮名手本忠臣蔵の四段目、判官切腹の場面だった。歌舞伎では、鎌倉時代という設定だ。浅野のお殿様にあたる塩谷判官（えんやはんがん）が、高師直（こう もろなお 吉良）への刃傷で切腹となる。家老の大星由良助（大石内蔵助）が来るのを待ちかねている。その場面が延々と続く。そこに、上使として登場したのが、高砂屋福助だった。由良助が駆けつけるのをまだかまだかと待つのが見せ場なのだが、まだ、高校生だった私にはまだるっこしく感じられていたと思う。高砂屋福助が花道に現れたとき、すつと胸がすくような気がした。その時は、彼の名も知らなかった。また彼が出演したら観たいと思ったが、それっきり出演がなかった。当時、私は「演劇界」の読者。旧姓須藤で、すの110番だった。「演劇界」に問い合わせ、九州別府の病院に入院中だと知った。今なら、個人情報保護法で教えてはもらえなかっただろう。

ちようど、そのころ、大学の茶道部の友人が、部の先輩とお付き合ひしていて、大分の彼の家へ一緒に行ってくれと言われた。それを幸いに、大分へ行き、高砂屋福助丈のお見舞いに行った。病院まで、先輩の友人に送ってもらったと記憶する。昭和四十三年の夏休みのことだったと思う。その後、福助丈は亡くなり、葬儀にも行ったが、香典を届けることはできなかった。千葉県市川真間のご自宅に届けに行った。それから、就職して車の免許を取り、伯龍と結婚するまで、高砂屋のおばさまとの交流は続き、福助丈の遺品を届けるのに車を出したり、松竹のモギさんが、三代目中村梅玉の死に絵（役者が亡くなったときに出す絵）を市川に受取りに来るのに立ち会ったりした。おばさまに誘われ歌舞伎座にご一緒した。おばさまを本牧亭にお連れして六代目神田伯龍を聞いたこともあった。